

研究主題

「学び合い」を通して 学びを深める 授業の創造
～見方・考え方を働かせた「学び合い」はどうあればよいか～

◆ 私たちが目指す「学び合い」のある授業とは

子供一人一人が、切実な「問い」をもって、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、他者と考えを交換し合って、自分の言葉で表現しながら「問い」を解決するとともに、次の「問い」に質を上げていく子供主体の「学び合い」のある授業

◆ 私たちが目指す「学び合う」子供の姿とは

	低学年 聞く・受け止める 伝える	→ 中学年 比べながら聞く 分かりやすく伝える	→ 高学年 違いを考えながら聞く 根拠をもって伝える
聞く・伝える	○相手の話をよく聞く。 ○自分の考えを伝える。	○相手の考えと自分の考えの違いを比べながら聞く。 ○自分の考えを分かりやすく伝える。	○相手の思いや立場を理解し、受け入れながら聞く。 ○伝えたいことを根拠をもって分かりやすく伝える。
考える・整理する	○相手の考えと自分の考えの同じところ違うところを見つける。	○集まったみんなの考えや情報を比べて、違いを見つけたり、関連付けたりする。	○みんなで集めた解決の方法や情報を選択したり、分析したりしながら整理して、課題解決に向かって話し合いを深める。

◆ 私たちが目指す「学び合う」教職員の姿とは

○ 教師一人一人が、自分のこととして日々の授業改善に取り組む。

→実践の積み重ねをもとに理論を構築し、鹿屋小スタイルを確立する。

(テレビ会議を使ったセンター研究主事による指導→)



○ 同僚性・協働性を発揮しながら、授業をつくり上げる。

→教科班毎に模擬授業、事前授業を行い、みんなで授業をつくり上げる。

(5月に実施した外国語の研究公開授業→)



○ 学校の垣根を越えて、教職員が話し合い、共に考える中で主体的に学ぶ。

→他校の先生方と一緒に授業をつくる。

(共同研究員との合同授業研究→)



＜授業をイメージする＞

講義、研究公開等に参加し、優れた授業実践を参観して授業をイメージする。

- 研究主事による随時指導
- 他校研究会への参加・還元

＜授業を見る・見せる＞

自ら授業を公開し、多くの人に参観してもらう。

- 研究授業（年間50回）
- 連携研究校の研修参加

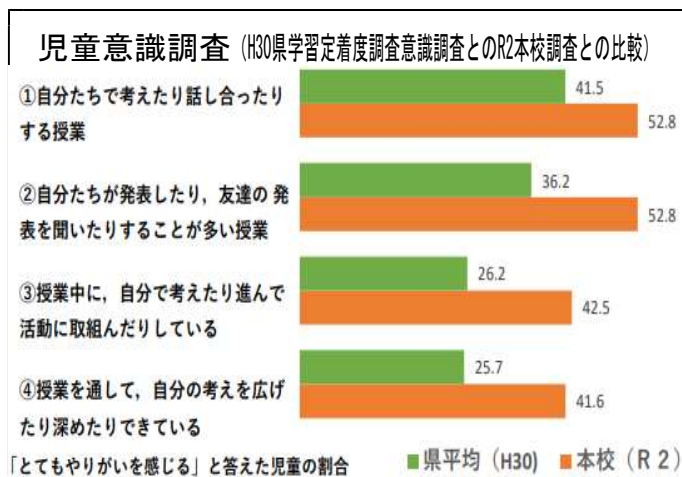
＜授業について語り合う＞

日々の授業実践について語り合う。

- 共同研究員との共同研究
- 小中連携部会

◆ 3年間の研究の振り返りとこれから

□ 子供たちはどう変わったか



□ 私たちはどう変わったか

【教師の声】

- 先生方の様々な意見を聞きながら、新しい手立てや見落とししていた子供変化に気付くことができた。
- 真剣に学び合う子供の姿にもっとよい授業をつくろうとやる気が出た。
- 正直しんどいこともあるけど、みんなで授業をつくっていく面白さや、やりがいを感じた。
- 子供一人一人がどんなことを考えたり感じたりしていたのかを、しっかりつかみながら授業をするようになった。

□ 研究のこれから

- 「学び合う」ことの意味、「学ぶ楽しさ」とは何か授業づくりを通して、子供の姿と教師の姿の両方の視点から明らかにしていく。
- ユニバーサルデザイン・合理的配慮の視点から、子供たちの「学び合い」ととらえなおし、子供一人一人の特性に応じた「学び合い」の在り方を考える。
- タブレットをはじめ、多様なICT機器を効果的に活用した「学び合う」授業づくりを進める。
- 他校との連携をより一層深め、授業力を高め合う教師の輪を広げていく。

【教師の見た変容】

- 自分たちで考えたり、話合ったりする授業に対して、やりがいや楽しさを感じる子供が増えた。
- 異なる意見も受け入れながら一緒に課題を解決しようとする姿がよく見られた。

【子供たちの声】

- 友だちが最後まで聞いてくれると楽しい。(2年)
- 自分たちで授業を進めているみたいでやりがいを感じる。(5年)
- よく分かって自信がついた。(6年)



【係・周りからの声】

- 空き時間を有効に活用しながら、授業づくりについて真剣に、楽しく話合っている姿をよく見かけます。(指導主事)
- 指導案審議や授業研究に参加させていただくと先生方の熱が伝わってきて、自分も頑張らなきゃと思います。(研究員)



(模擬授業・事前授業を繰り返し授業の質を高めていく↑)

【R2研究同人】

- <本校職員> 下松勝浩(校長) 中島功詞(教頭) 高橋 誠(研修係) 赤崎桂子 栗屋敏郎
井神由衣圭 池谷俊樹 井手健太 伊東奈央 内之倉里美 釘田康恵 草原 大 黒木舞奈美
古城早紀 齋藤瑛康 坂元佳子 佐多雅美 園田竜聖 武石健太郎 溜 勇一 田村由布子
戸高正恵 中原まりな 濱田梨佳 福里智子 福留由美 松清達也 松崎優子 間淵結衣
南 涼子 村井桂子 山ヶ城真一 吉川美保 吉田雄二 米重優子 下戸愛子 崎坂百合恵
三谷弘美 坪山麻衣子 樋口美紀子 山元和秋 安藤めぐみ 梅北ひとみ 福丸璃紗 山内明美
<共同研究員> 津之地美帆(祓川小) 峯山真里子・吉元 梓(東原小) 四元大輔(田崎小)
前野理恵(西原小) 岩崎直広・徳永智久(寿北小) 郷原健一郎(大始良小)
内田美貴(細山田小) 下津慶一(野里小) 西馬場三千代(上小原小)
<連携研究校> 鹿屋市立田崎小学校 鹿屋市立西原台小学校

国語科

「言葉による見方・考え方」を働かせた学び合い

→ 言葉と言葉の関係を言葉の意味や働き、使い方などに着目して
叙述を根拠に話し合い、言葉への自覚を高め合うこと。

重点的に取り組んだポイント

- 学習課題の明確化
- 子供の思考の可視化
- 振り返りの場の設定

POINT 1 学習課題の明確化

- ・ 子供たちが解決したいと思うような必然性、面白さのある課題を設定する。
- ・ 子供たちが既習事項とのつながりを意識して、目的をもって追究していくことができる単元のゴールを設定する。

＜実践例＞～中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう

「世界にほこる和紙」「伝統工芸のよさを伝えよう」4年～

単元のゴールを「伝統芸能について調べ、調べたことをリーフレットにまとめてみんなに紹介しよう」としたことで、ゴールを意識しながら、自分事として教材文を読み深めることができた。

(毎時の子供の問い<課題>)



リーフレットにはどんなことをどんな順序で書けばいいのかな

絵や写真は、どんなふうに使おうと分かりやすいのかな

事例や理由を書く相手と伝わりやすいリーフレットができそうだね



- 解決したいと思う単元のゴールを設定し、試行させたり、これまでの学習との共通点や相違点について考えさせたりする等、子供が自分事として意欲的に追究できる単元計画を立てる。

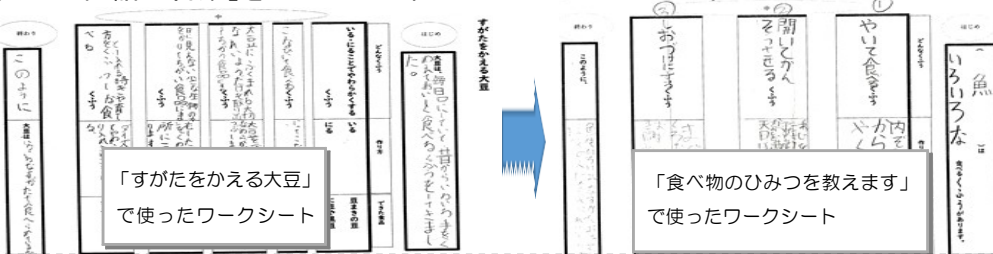
POINT 2 子供の思考の可視化

- ・ 子供に働かせてほしい「言葉による見方・考え方」や、子供が働かせた「言葉による見方・考え方」を可視化させ、全体で共有させる。

＜実践例＞～れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう

「すがたをかえる大豆」「食べ物のみみつを教えます」3年～

教材文の全文掲示を行ったり、ワークシートの形式を工夫したりすることで、「段落」「問いの文」など学んだ「国語の言葉」を生かして文章にまとめることができた。



同じ形式のワークシートを使うことで、「すがたをかえる大豆」で着目した言葉を生かして、「食べ物のみみつを教えます」の学習で文章にまとめることができたよ。



- 課題を明確にするための可視化、課題を協同で解決するための可視化、振り返りのための可視化の三つの視点から手立てを考え、学習活動の中に適切に位置付ける。

POINT 3 振り返りの場の設定

- ・ 働かせた見方・考え方が他の学習でも使えるように、終末に学習を振り返り、文章でまとめさせる。
- ・ 振り返りを活用し、学習の内発的動機付けを高め、学びの連続性を生み出す。

＜実践例＞～じゅんじょに気をつけて読もう「たんぽぽのちえ」2年～



本時のめあて「文を正しい順序に並び替えるにはどのようなことに気を付ければよいだろう。」を確認した後に、振り返りカードを記入した。その後、自分の書いた振り返りを数名発表し、全体で共有した。

(←振り返りカード)

- 学んだことを振り返り、文章化することで、自己の変容を自覚させるとともに、本時の学びを確実にする。

国語科の 授業実践

表現の工夫をとらえて読み、それを生かして書こう
『鳥獣戯画』を読む「日本文化を発信しよう」(光村図書 6年)
第5時(全11時)

◆ 本時のねらい

筆者の伝え方の工夫を応用したり、友達と考えを共有したりすることを通して、読み手を引きつける紹介文を自分なりに考えることができる。

◆ 働かせたい「言葉による見方・考え方」

教材文の中にある読み手を引きつける言葉や表現に着目(見方)し、自分の紹介文を推敲する。(考え方)

◆ 本時案

本時・学び合いの流れ ※下線は「言葉による見方・考え方」	
過程	主な教師の働きかけ ※評価
1 前時までの学習を振り返り、筆者の解説文にある工夫を確認する。 「論の展開」「表現の工夫」「絵(資料)の示し方」	前時までの学習の振り返りができるように、掲示しておく。
2 推敲の仕方を確認する。	本時の学習の目的を明確にするために、教師が試作した紹介文で正しい仕方を確認する。
3 学習課題をつかむ。 読み手に伝わりやすい紹介文になるように「試しの文」をすいこうしよう。	資料を引用するときには「」を付けたり、本文より少し下げたりすることや、原文をそのまま書き抜くこと、出典を明らかにすることを確認する。
4 本時の学習の見通しをもつ。 ①試作した紹介文を読む。 ②どの工夫を活用するか。 ③すいこう(自力)→アドバイス(集団)→再すいこう(再自力)	学習の進め方を確認する
5 試作の紹介文をすいこうする。 ・どの工夫を活用するか。 ・資料のどの部分を引用するか。 書き出しを「みなさんは〜を知っていますか」としてみようかな。 意見や感想を伝え合う。 どんな説明の仕方をすれば外国の人にも分かりやすくなるかなあ。 写真を入れてみたかどうか。文章だけでは伝わりにくくても、写真があれば分かりやすくなるかなあ。	試作の紹介文に書き込みさせたり、準備した資料の叙述を根拠にしたりしながら、自分の考えをもたせる。 なかなか書き進められない児童の参考になるように、すいこうしたことで読み手を惹きつける紹介文になった作品を紹介する。 どの工夫をどのように生かして紹介文を書いているか参考にするために、グループやペアで意見交換をさせる。 相手意識をもたせるために複数の人と意見交換させる。 改善点をアドバイスし合うようにさせる。 よりわかりやすい紹介文にするために、意味が伝わりにくいところを質問させる
6 集団解決での話し合いをもとに、再度すいこうをする。 アドバイスされたように写真を入れてみたら、分かりやすくなった。	※「論の展開」「表現の工夫」「絵(資料)の示し方」の観点から、読み手を惹きつける紹介文になるように修正できたか。(作品)
7 学習のまとめをする。 論：言葉・歴史の発展 表現：現代で生かされ方・現代との違い・・・ 資料：絵(写真)に○印をつけ注目させる 現代での様子(写真)との比較	次時からのパンフレット作りに生かすことができるように、「論の展開」「表現の工夫」「絵(資料)の示し方」それぞれの工夫について、具体的にまとめる。
8 学習の振り返りをする。 ①分かったこと・思ったこと ②生かせること ③ともたちのことで「なるほど」 ④もっと考えたい・したいこと	本時の学習で身に付いたことや深まったことなど自分の言葉で表現させ、自己の学びの変容について目覚めさせる。
9 次時の学習について知る。 すいこうした紹介文をグループで作成するパンフレットに生かしていくことを確認する。	読み手に伝わりやすい紹介文の書き方を振り返らせ、次時への意欲をもたせる。

① 学習課題の明確化 1

単元のゴールを「カピックセンターに来る外国人に日本文化を紹介しよう」と設定。そして、本時で学習したことを生かして書いてみたいと思う学習課題を設定した。

① 学習課題の明確化 2

教師の作成した二種類のモデル文を提示することで、本時の学習の目的を明確にした。

② 子供の思考の可視化

活用したい工夫について考え、紹介文の推敲をしていく。また、お互いの紹介文についてアドバイスをし合い、再自力解決の場へつなげた。



自由に席を離れて、友達の書いた推敲について聞いている。

③ 振り返りの場の充実

推敲しながら気付いたことを文章化することで、自己の学びの変容や次時以降の学習課題を明確にした。



試作した紹介文とそれを推敲した文を読み比べ、読み手を惹きつける紹介文になっているかをアドバイス合っている。

子供たちの振り返りより



算数科

「数学的な見方・考え方」を働かせた学び合い

→ 学習課題から着目すべき問いを発見し、数学的表現を用いた思考・交流をしながら、解決した過程や結果を振り返ることなどを通して「算数のよさ」の実感を伴うこと。

重点的に取り組んだポイント

- 学習課題の工夫
- 学び合いの場の充実
- 振り返りの場の充実

POINT 1 学習課題の工夫

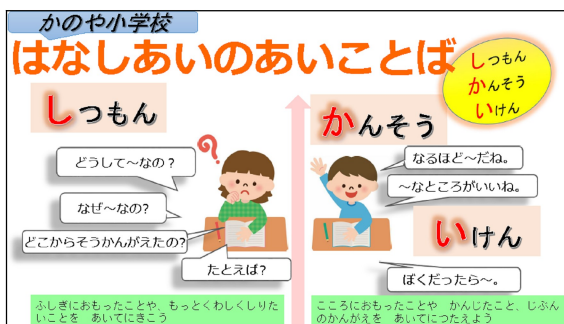
子供たちが「解決したい」と思い、主体的に、納得いくまで追究し続ける「学び合い」につながるよう進めていく。導入時の教材のしかけを作る。

- 必要感をもたせる課題(内容・掲示の仕方)の工夫
- 学びのつながり(「数学的な見方・考え方」)を意識した見通しのもたせ方の工夫

POINT 2 学び合いの場の充実

子供たちがお互いの考えの相違点や類似点に気付き、「数学的な見方・考え方」を働かせてよりよい解を見つけ出させるよう進めていく。

- 学び合いの形態の複線化
- 子供同士の思考をつなげる手立て
- 「質問・感想・意見」による学び合いの活性化



(↑ 話し合いの合言葉「質問・感想・意見」)



(↑ 子供同士の思考をつなげるために教師がファシリテータ役になる：2年「ひき算のひっ算」)

POINT 3 振り返りの場の充実

解決までの学習(思考)過程を振り返り、一人一人の「数学的な見方・考え方」を確かなものにするために、視点に基づいた記述や発表等ができるようにする。

- 再自力解決場面の充実
- 「数学的な見方・考え方」の活用
- 教師による振り返りの価値付け

き	ついたこと
つ	かったモンスター
と	もだちの考え
できる	ようになりたいこと

(← 振り返りの視点「き・つ・と・できる」)

重要な「数学的な見方・考え方」を9つのモンスターで示す。
(学校図書の教科書から)

(単元末の振り返りシート)

算数 ふりかえりシート ()年()組()番 名前()
この単元を学習前、自分と、学んだ後の自分を、くらべてみよう。
この単元を学習して分かったこと、できるようになったことは何だろうか？
わかったことは～ できるようになったことは～
この単元を学習して、なるほどと思った考え方や気づきは何かある？
大切だと思った考え方は～ 「なるほど」と思ったことは～ ○○さんのこんな考え方が参考になった。
これまで使ってきた○○という考え方を生かした。など 算数のめがねや友達との考えなどからも！
この単元を学習して、新たに疑問に思ったことや、他に生かせることは何だろうか？
もったやっていたことは～ 新たな疑問は～ 他の教科や、生活にいかせるものは～
算数の「見方・考え方」(9つ)
「一つ分」「分ける」「別の表し方」「同じように」「どうして？」
「そろえる」「まとめる」「変える」「きまり」

- ・ 1 単位時間や単元のまとまりの中で、振り返りの視点をもとに、今までの学習と比べて気付いたことや自己変容などを記述させた。

外国語活動 外国語科

外国語によるコミュニケーションにおける「見方・考え方」を働かせた学び合い

→ 相手意識をもち、既習の学習を含めた自分の知識を生かしながら、場に
応じた適切な表現を考え、お互いの気持ちについて伝え合うこと。

重点的に取り組んだポイント

- 主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫
- 新しい授業形態の確立
- コミュニケーション・クラスルームイングリッシュの活用
- 外国語活動の充実

POINT 1 主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫

・ オールイングリッシュタイムの設定

→ 教員とともに、英語だけによるコミュニケーションを体験する場(時間)

オールイングリッシュタイムそのものがSmall Talkであるという捉え方

外国語によるコミュニケーションにおける「見方・考え方」を働かせた学び合いにつながるという考え



(↑ 実際の天気を予想する活動)

本時の学習内容にかかわる教師と子供、子供同士の対話を通して、新出表現の導入、練習や既習事項の確認を行う。

- 対話の内容を視覚的にイメージできるようなプレゼンテーション、挿絵カード、動画等を活用
- 子供にとって身近で興味関心が高まるような題材の工夫
- 本物の情報をもとにした授業の組み立て 例 全国・世界の天気、今日は何の日、給食、テレビ番組

POINT 2 新しい授業形態の確立

(6年 Unit4における質問の例 ↓)

・ 教科書教材の有効活用

教科書に載っている絵・写真等の情報を生かして、教師と子供、子供同士で対話を行う。

- 既習事項の想起、本単元の表現の定着
- 自分事として捉える
- 単調な流れにならないための工夫

What can you see?

How do you spell "Lucas"?

Which do you like watermelon or ice cream?

(子供同士の対話も可能)



POINT 3 コミュニケーション・クラスルームイングリッシュの活用

・ 会話スキルの蓄積・活用

Warm-up(導入)段階でクラスルームイングリッシュを確認し、コミュニケーション活動(オールイングリッシュタイム、様々なActivity)の中で使えるようにする。

- 毎時間の授業で設定(3~6年生)
- 「Good.」「Nice.」等の共感的で自己肯定感を高めるような表現、「How about you?」「It's your(my) turn.」等の対話を続けるための表現を学ぶ

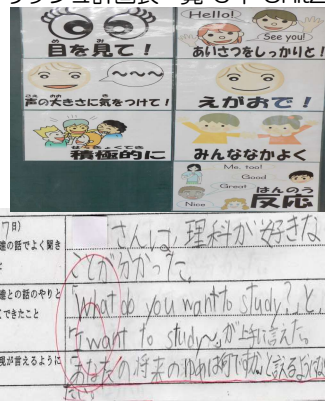
How is your school life?	2	[SO] 世界の子供たちの学校生活や日課について、聞こえた順に○に番号を書こう。	How about you? And you?
◎日常生活について伝え会おう。	2	[YT] 日常生活や宝物を伝え会おう。	Here you are. Thank you. You're welcome.
	2	[EC] 宝物を伝え会おう。	Please guess. That's right. I'm finished. Not yet.
	2	[OH] 世界の人々の生活について考えよう。	

POINT 4 外国語活動の充実

(↑クラスルームイングリッシュ計画表一覧 6年 Unit2)

・ 英語に親しむ雰囲気づくり

- ① ジェスチャーを付けての発音、リズムチャンツによる単語や会話等の繰り返し練習を行う。
- ② 本時の授業で気を付けるポイントを確認する。(ポイントの例)→ポイントを意識した積極的な姿が期待できるようになる。
- ③ Activityの前にデモンストレーションをする。日本語で説明するのではなく、教師同士の対話から内容を理解させる。
- ④ Activityの途中や最後でよかったところ・もう少しがんばってほしいところを伝えることで、より充実したコミュニケーション活動を目指す。
- ⑤ 活動のよさを実感させる振り返りを行う。(振り返りカード→)



- 繰り返し、ジェスチャー、リズムチャンツ
- デモンストレーション、フィードバック

- 活動のポイントの提示
- 終末での振り返りの実施

外国語活動・外国語科 の授業実践

「Unit6 What would you like?」(5年) 第3時(全7時)

◆ 本時のねらい

ていねいに注文を受けたり、注文したりする表現を使って、相手の食べたいものを尋ねたり、自分の食べたいものを伝えたりすることができる。

◆ 本時案

① 主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫

- オールイングリッシュタイムの設定
→ 九州地方の県の名物や当日の天気、日付・今日は何の日・芸能人の誕生日、鹿屋小レストランでの対話
- プレゼンテーションソフトを使って写真や絵を提示することで子供の興味・関心を高めながら対話を進めた。
- 鹿屋小レストランでは、実際の給食で出たメニューの写真を準備して値段を設定。本時及び本単元で扱う表現のデモンストレーションの後に、子供とも対話をした。



(1) Kanoya elementary school lunch restaurant
<鹿屋小レストラン>での対話

時間	主な学習活動	教師の働きかけ(※評価 ○ HRT ☆ JTE)	学習的な語彙・表現
15	① warm-up 1 あいさつをする。 2 クラスルームイングリッシュの練習をする。 3 Small talkを行う。 4 歌を歌う。 Unit6 P.56 Let's Sing. ♪ What would you like? 5 本時の話題を確認する。 What would you like?	○ All English timeを設定する。 ①☆ 使用場面を確認しながら復唱させることで、やりとりの中で自然に使うことができるようにする。 ②☆ 天気、曜日、日付、誕生日等について、既習事項の定着を図りながらスライドを用いて対話を行う。 ③☆ 単元を通して、「What would you like?」「I'd like ~」、金額についてのやりとりを意図的に入れることで、表現に慣れることができるようにする。	How are you? What time is it? Which one? / Let's me see. How's the weather today? What day is it today? What's the date today? What would you like? I'd like ~. It's ~yen.
10	④ Activity 1 1 Let's listen!を行う。 ① 絵の内容について確認をする。 ② 「Let's listen!」を聞き、誰が何を注文したのか考える。 ③ 友達同士で聞こえた言葉を話し合い、確認をする。 ④ 答えを確認する。	①☆ 教科書に描かれているのは何の絵なのか尋ねたり、スペルを確認したりすることで、見直しをもつて聞くことができるようにする。 ○ 聞こえた内容について、できるだけ英語を使って友達と話をさせることで、聞いた内容を確かめながらの活動とともに、コミュニケーション活動につながるようにする。	What can you see? How do you spell ~? Please point to pictures. Do you want to hear again? You got it? Are you finished? What can you hear? Please talk with your partner.
15	⑤ Activity 2 7 Let's try 2を行う。 ① 注文の取り方や注文の仕方について練習する。 ② デモンストレーションを見る。 ③ 友達とペアでやりとりをする。	①☆ リズムよく発音の練習をすることで、英語の表現に慣れ親しむことができるようにする。 ○ ピクチャーカードを提示しておくことで、視覚的に理解を促したり、児童同士でやりとりをする際のヒントにしたりできるようにする。 ②☆ デモンストレーションを行い、インタビュー活動で使う表現を聞くことで、使用場面を想起しながらやりとりを行うことができるようにする。 ③☆ 会話がうまく進まない児童には、寄り添って復唱させたり、教師の発音を聞かせたりすることで、英語でやりとりができたという経験をもたせることができるようにする。 ④☆ 児童のよかったところを称賛することで、達成感を味わわせるとともに次時の活動への意欲をもつことができるようにする。	【注文の取り方】 What would you like? I'd like ~. 【食べ物】 curry and rice fried chicken grilled fish hot dog hamburger omelet pizza ramen salad soup spaghetti steak
5	⑥ Writing 8 Sounds and Letters P.93の小文字の書き取りを行う。 ・ 聞き取ったアルファベットを小文字で書く。	①☆ 特徴が似ているものを出題することで、形や四角を意識して書くことができるようにする。 ○ 困っている児童には、教科書のアルファベットと見比べを見せながら書くようにする。	e, o, a, r, u, m, l, s, w, x, y, z
5	⑦ Review 9 学習したことを振り返る。 10 あいさつをする。	①☆ 振り返りシートを書くことで、学習したことの振り返りや児童が書いた「言えるようになった言葉」を個別に教えながら振り返りを行うことで、もっと英語表現を知りたいという意欲を高めることができるようにする。 ②☆ 児童のよかったところを称賛することで、達成感を味わわせるとともに次時の活動への意欲をもつことができるようにする。	

③ クラスルームイングリッシュの活用

- 教師自身が授業の中で使って活用を促した。
- これまでの積み重ねにより、「Nice」「Me, too」などの言葉が授業の中で自然と出ていた。

② 新しい授業形態の確立

- 教科書の絵を使って、単語や綴り等を確認。既習事項を想起させた。
- 聞き取った内容について子供同士で確認させた。

④ 外国語活動の充実

- デモンストレーションにより、場面設定や対話の内容を理解させた。↓



- ペアによるActivityの途中や最後に、よかったところやもう

少しがんばってほしいところを伝えることで、ポイントを意識してその後の活動に取り組むことができた。

→フィードバックによるコミュニケーションの活性化

積極的に、みんな仲良く、目を見て、笑顔で等

- 振り返りの中で「言えるようになりたい言葉」を確認することで、表現力の向上を目指した。
- 授業の最後になんかがんばっていたところを称賛することで、本時の達成感とともに次時の意欲へとつなげた。

(ペアでの対話の様子 →

